環境（かんきょう）
かべ新聞朝倉　第7号

先人たちの知恵はいきている

●発行日 平成24年（2012年）3月15日　●発行所 朝倉市・朝倉市環境アクション協議会　かべ新聞編集委員会　〒838-0062 福岡県朝倉市堤4－6　電話 0946-23-1153（朝倉市　環境課）

日本が誇れる「歴史的農業遺産」

山田堰に立つ中村哲医師

200年以上活躍する今三連水車

高台から望む山田堰
朝倉市山田（恵蘇八幡宮前）

筑後川の水は、山田堰から堀川用水を通り、朝倉の多くの田畑を潤し、稲や野菜へと染み渡っています。ある田畑は、今も堀川から三連水車、二連水車の柄杓で受けて、コクコクと水を張っています。

大干ばつによる農作物の不足から、先人たちは、筑後川から取水する堀川用水を江戸時代の1663年に完成させ、のちに堀川用水の水量を増やすために、1790年に当時の庄屋・古賀百工を中心に山田堰を完成しました。

山田堰は、全国にも類のない堰で「傾斜堰床式石張堰」ともいいます。流れが激しい筑後川の水圧を和らげるため、川の流れに対し堰を斜めに配置する造りです。自然石を川から人力で組み上げて築造した石張りとなっており、そのスケールの大きさに圧倒されます。南舟通し、中舟通し、土砂吐きの三水路で川の強い水圧を分散し、洪水や水路決壊を防いでいます。魚がのぼるときの魚道にもなり、かつては、木材運搬にも使用されました。

堀川に送った水は、水車群によって水面より高い土地にも水を送ります。大中小の微妙なバランス、柄杓の角度、逆サイフォンの仕組みなど、先人たちの知恵がここでも伺えます。

ペシャワール会の中村哲医師は、アフガンの復興支援として、食料生産の用水を得るために、全長25・5kmのマルワリード用水路建設に着手しました。取水技術の壁に突き当たったとき、「山田堰」と出会い、その技術と自然と同居する先人の知恵に学び、用水路を完成することができました。「山田堰」の技術が他国で活かされたことで、中村医師は、『時代と場所を超え、多くの人々の恵みをもたらした不思議』と述べられています。

この堰付近には、斉明天皇・天智天皇にまつわる多くの伝承があり、筑後川とこの地の自然に積極的に触れ合ったことを想い浮かべます。

ここを訪れる人たちは、観光客に限らず、筑後川の水を活かした水光る農の風景とともに先人たちの知恵に触れに来ています。農作物を口にしたとき、水々しさとともに、先人たちの知恵の味を何となく感じました。

小倉百人一首の一番札「秋の田のかりほの庵のとまをあらみ我が衣手は露にぬれつつ」（天智天皇）の歌碑前で説明する、観光ボランティアの丸林さん

環境保全活動紹介

シリーズ 第7回

自然にふれあって自然のよさに気づこう！

秋月中学校

真剣な表情でのぼり人形づくり

秋月中学校（校長：塚本憲子、全校生徒：97名）では、夏の蛍見会、秋の観月会に合わせて10日ほど、地域の外部講師の指導で自然や産業、歴史や伝統文化等を生かした「秋月ブランド」講座を開催しています。メニューは木工や秋月和紙づくり、料理などです。地元名産の葛や郷土料理、梨スイーツ、うどんの麺打ちやパンづくりも人気でした。

木工の講座では、秋月をテーマに目鎖橋、長屋門、秋月城などの図案を板に写して糸鋸で切りました。秋月和紙の講座では、その歴史や製造工程について学び、和紙づくりを体験し、草花や茶葉をまぜた畳一畳ほどの大きな和紙を作り上げました。秋月百景の講座では、水彩画・版画・写真で仕上げた郷土の風景をはがきにして販売しました。

コウゾを原料に大きな和紙づくり

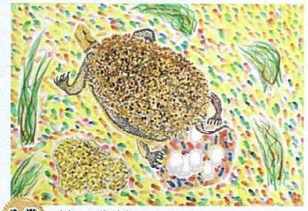
身近な自然や産業、伝統文化を体験することを通して、地域のすばらしい自然環境に気づき、郷土への誇り、ふるさとを愛する心が育まれ、根付いていくことでしょう。

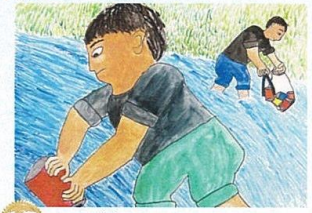
ふるさとの「川や海」絵画コンクール2011

平成23年9月に㈶福岡県地区衛生連合会では、子どもたちの環境問題への関心を深め、意識の高揚を図るため、小学校児童を対象にふるさとの絵画コンクールを開催しました。

応募総数は4387点で、そのうち朝倉市からは138点の応募があり、4点が入賞しましたので、その作品を紹介します。

入賞　林　拓さん（三奈木小2年）


入賞　越智　啓介さん（甘木小4年）


入賞　伊藤　亮さん（松末小5年）

入賞　釜堀　浩輔さん（三奈木小4年）

毎月第2週は きらきら美花美化週間

掲示期間　平成24年3月15日～6月30日まで

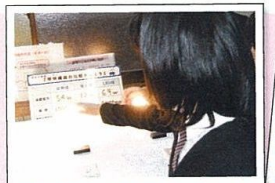
家族とともに省エネ活動

朝倉市環境アクション協議会の「人をはぐくむ」活動の一環として、12月12日、久喜宮小学校の5・6年生を対象に、「節電」「エコ生活」の出前講座を開催しました。

九州電力（甘木営業所）を講師に迎え、専門家によるエネルギー問題や家電製品での節電効果の説明を聴くなかで、子どもたちは自分たちが授業で事前に調べた節電への取り組みと比較し、うなずいたり、違いに驚いたり、新たな発見をしたり真剣に聴き入っていました。

子どもたちは今回学んだことを各家庭で実践し「節電」「エコ生活」に挑戦中です。

5年生の梶原遥菜さんの家庭では、「以前から、TVの主電源を切る。家電製品は節電タップを使うなど節電には取組んでいましたが、再度、生活を見直し、家族みんなで省エネルギー・温暖化防止を意識した生活を心がけたいと思います」と話していました。


種類の違う電球で電力量や熱量の違いを体験

使用量の多い家電探しクイズに取組む子ども達

電気使用量の変化をグラフで説明